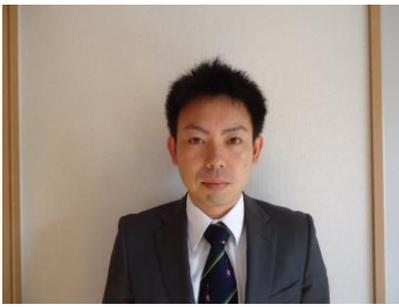


ふりがな 氏名	あべ だいすけ	都道府県	宮城県	
	阿部 太輔			
所属/肩書	大崎市立志田小学校／教諭			
私の ESD活動	①命を守ること ～東日本大震災の教訓を生かして～ ②自分の街の素晴らしさ、発見 ～地元企業の環境への取り組みに触れて～			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

① 前勤務校で私が身をもって体験した東日本大震災のことを、現在の勤務校でも折に触れて話している。

あの日、低学年児童が下校した直後に起きた地震。私が児童たちを追いかけたとき、彼らは下校グループの友達と肩を寄せ合い、頭を守りながらしゃがんで大人が来るのを待っていた。その後、校舎1階天井まで津波が押し寄せたため、全員が校舎3階の教室に入り、カーテンにくるまって互いを励ましあいながら一晩を過ごした。翌朝、飲み物だけが届き、1本のジュースを3人で分けあって喉の渇きを潤した。8割以上の児童の家が全壊したので、衣服や文房具などは全て流され、何も無い児童がほとんどだった。その状況の中だからこそ、文房具や生活必需品を受け取る時児童はとても嬉しそうだったし、支援してくれた人々への感謝の気持ちを忘れずにそれらの支援物資を使用していた。

また、防災面では、何が最も安全なマニュアルなのかが分からなくなった。体育館の2階に備えていた防災備品は取り出すことすらできなかつたし、保護者に児童を引き渡したのは良かったが、その後の安否がわからなくなったという現実直面した。

現在の勤務校で児童に当時の話をし、命を守ること、物のありがたさ、物を大切にすることとはどういうことかを考えさせたり、防災訓練に真剣に取り組ませたりしている。

② 再生可能エネルギーを利用している市内の企業に見学に行き、児童は太陽光発電や廃油の再利用などの具体的な様子を知ることができた。この再生可能エネルギーへの転換で温室効果ガスの排出を減らしたり、廃油をバイオディーゼル燃料として活用したりすることが環境の保全につながるということを学んだ。また、自分たちの身近にそのような企業があることにも気づき、大崎市の良さを再認識し、地元を愛する心を育むこともできた。

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

若い私たちが諸先輩方より多くもっているものは、時間である。時間があるということは、児童生徒と関わる時間や児童生徒が成長していく様子を見とる時間、私たち自身が“地球”と向き合っていく時間が長いことでもある。

よって、次の世代を担う児童生徒が今後どのように成長し、どのような社会の担い手になるかについて、これまで以上に、環境、国際問題、人権、防災などに目を向けて指導する必要があると考える。

私たちは、そのような児童生徒のために、少しずつでも知識とESDの意義、これから果たしていくべき役割を伝えついでいく必要がある。そしてこれらは単発で終わるのではなく、継続的に、さまざまな教科・領域において身近な地域から地球規模にまで視野を広げて指導していくことが大切であると考えている。